

## MDJ プレス・リリース – ファイナル・レポート

**A+A 2015 国際労働安全機材・技術展**  
ドイツ・デュッセルドルフ  
2015年10月27日～30日



**65,000名を超える業界関係者が来場 – 海外からの参加者が増加**

**職場、作業現場は将来性ある市場 – 企業は従業員の健康と安全に今後も投資**



職場の変化はより一層の勢いを増している。デジタル化する職場と近年の人口動態変化は、新たな課題を生むものであり、同時に新たなビジネス・チャンスをも作り出している。企業は優良な人材確保のため、より多くの予算を投資し、従業員の労働環境や労働条件を整

備する必要性に直面している。これが今回の [A+A 2015 \(国際労働安全機材・技術展\)](#) で、出展者、ビジター双方から最も高い関心が示されたテーマである。開催初日のオープニング・セレモニーに登壇したドイツ政府のアンドレア・ナーレス労働大臣もこの点を強調し、今回の A+A は幕を開いた。

30回目を迎えた A+A は 2015年10月27日から30日までの4日間、57か国から1,887の出展者、65,000名のビジターの参加のもと、デュッセルドルフで開催された(前回2013年:63,000名)。上記実績は双方とも過去最高を記録した。ビジターの関心は労働安全、労働衛生、職場での健康促進、安全管理、危機管理における最新の情報や傾向である。海外からのビジターは80か国からとなり、全体の30%を占め、前回に比べ明らかに増加した。

「今回の A+A の出展者数、ビジター数が過去最高を記録したことにより、A+A が労働安全、労働衛生分野の展示会と会議におけるグローバルなリーダーとしての地位を再確認した。同展がヨーロッパをはじめ他国において、関連業界からの注目を集めたり、政治的議論の喚起を促している。また、今回のパートナー国である韓国が、会期中に多数のプログラムを実施してくれたことも有難かった」と、主催者メッセ・デュッセルドルフの取締役、J.シェーファーがコメントした。

併催イベントである A+A コングレスはドイツ連邦労働安全衛生協会(Basi)が主催する会議で、5,000 を超える代表らが 350 人の発表者による 60 のイベントに参加した。様々なテーマをカバーした同会議は、国際労働機関（ILO）と国際安全衛生センター（ISSA）の会議とも併催で行われた。

### A+A はトレンド・バロメーター – 出展者のビジネスは勢いを増す

A+A の出展者は PPE をはじめ職場や作業現場での安全や衛生に関わるあらゆる製品を出展し、参加するビジターもイノベティブな新製品の数々に触れた。

A+A 見本市委員会の委員長であり、出展者であるポーナック社の代表取締役社長ポーナック氏は、安全産業が成長産業であるとコメントした。同社自体も今回の A+A 出展を通じ、多数の専門家、業界関係者とのコンタクトを新たに得、同社の墜落防止装置などへの更なるビジネスに期待を示した。特にサポートプログラムである『高所及び深部からの安全な救助作業』の特別なショーなどにより、製品に関する一層の手ごたえを感じている。

今回、日本からは 15 社（前回 10 社）の企業が出展し、自社製品の商談、PR の場として同展を利用した（日本出展者リストは[こちら](#)）。日本出展企業からも以下のポジティブなコメントが寄せられた。



再帰性反射材を出展した[ユニチカスパークライト株式会社](#)（写真左）

「4年ぶり、通算15回目の出展ですが、目まぐるしく変化するトレンドや情報に基づいて、それぞれの出展者が趣向を凝らしておられ、非常に我々も勉強になりました」

難燃素材を出展した[倉敷紡績株式会社](#)（写真右）

「集客にバラツキがあったが、初日、2日目で前回4日間以上の成果はあった。2回目での出展で、より詳細な話ができ、今後に期待できる」





高視認性 LED ベストを出展した[株式会社スリーライク](#) (写真左)

「新商品の紹介の成功と、ヨーロッパ市場での商品宣伝のきっかけとなり大変良かったです」

一方、ビジターは高品質な PPE やユニフォームへの投資、取扱い、購入に高い関心を示した。調査会社の発表によると、ドイツの PPE マーケットは建設業、製造業の需要により 4%増加しており、過去 2 年で市場規模は 18 億ユーロ (約 2,400 億円) に達した。これは世界全体市場規模の 10%である。

その他、A+A 2015 で注目された製品としては、ガス検出器とその警告システムがある。ガス漏れの視覚化やトラッキング機能など、必要に応じていつでもどこでもガス検出や情報確認ができる製品に注目が集まった。

防護服、作業服、ユニフォームは機能性はもちろんだが、流行を取り入れたものへのニーズが引き続き高まっている。現代の作業服は「かっこよく見える」必要があり、ファッショナブルなアウトドア・ウェア同様、フォルムや色にもこだわりが追求されている。これらの製品は多数の出展者が展示発表し、A+A ビジターは、様々なブースで直に製品を自分の五感で確認する良い機会を得た。

今回も前回に引き続き、「繊維ニュース」を発行する[ダイセン株式会社](#)が、前回 40 名を超える 70 名近い繊維関係者のツアーを主催し、会場を視察。

同社の岸田真一社長は今回のツアー視察に関し次のようにコメントした。

「「繊維ニュース」主催の視察ツアーには今回約 70 人が参加し、初めての参加者も多く A+A の展示規模に圧倒されたり、斬新な展示手法や独自性のある商品企画などに対し、大きなインパクトがあったようでした。参加者からは「日本よりもデザインや機能性で進んでいる」「今回は単なる視察できたが、次回からはビジネスとして A+A に行きたい」「イメージーションがかき立てられた」という声があり、非常に有意義なものになりました。また、参加者からのアンケートをもとに次回のツアーを検討したいと考えています」



ハイライトツアーでのブース訪問

**HB Schutzbekleidung 社**

希望する声も聞かれた。

今回、A+A の日本事務局である株式会社メッセ・デュッセルドルフ・ジャパン (MDJ) では、日本の繊維関係者を対象とした会場ハイライトツアーを会期中に実施し、ドイツ、オーストリアの作業服や PPE メーカーの出展者ブースを通訳付きで視察し、各社の社長や担当者から新製品の詳細な説明を受けた。特に日本の市場にはなく、可能性の高い製品には取り扱いを

夜には日本企業交流会も同じく MDJ 主催で会場内で開催され (写真右)、約 90 名の日本出展者、ビジターが参加し、ドイツ料理や地ビールを囲みながら、業界関係者とのネットワーキングの場として利用した。今回は A+A 開催前日の 10 月 26 日、日本において、高視認性安全服 (蛍光素材、反射材を使った作業服) が JIS 規格に制定されたこともあり、同製品を扱うメーカー、サプライヤー、企業の購買担当など関係者には取り分け高い関心テーマとなり、交流会でも A+A 視察を通じての同製品に関する意見交換が活発に行われた。



繊維ニュース・ツアー参加者集合写真 (会場インターナショナル・ラウンジにて)

また会期最終日にはダイセン主催による市内の作業服関連のショップツアーも実施され、展示会視察だけではない、様々な付加価値のあるイベント参加を通じて、労

働安全業界の現状をつぶさに見聞し、今後の自社ビジネスへの刺激やアイデアとした。

次回 2017 年の A+A は 10 月 17 日～20 日の会期でデュッセルドルフにて開催される。

A+A に関する日本でのお問い合わせは：

株)メッセ・デュッセルドルフ・ジャパン

担当：服部

〒102-0094 東京都千代田区紀尾井町 4-1 ニューオータニガーデンコート 7F

Tel.03-5210-9951 Fax.03-5210-9959

[mdi@messe-dus.co.jp](mailto:mdi@messe-dus.co.jp) <http://aplusa.co.jp>